

# 茨城大学学報

第293号

平成22年10月～平成22年11月



IBS ラジオキャラバン「茨大で語れば！」公開生放送の様子（11月13日）

## INDEX

- ◆ 職員採用内定通知書交付式を実施
- ◆ 第5回茨城大学同窓会連合会総会及び懇親会を開催
- ◆ 名誉教授称号授与式・懇談会を開催
- ◆ 平成22年 茨城大学学長学術表彰式及び講演会を行う
- ◆ ボゴール農科大学(インドネシア)における熱帯農業フィールド実習の報告会を挙行
- ◆ 図書館(本館)で名誉教授室を開室
- ◆ 定例記者発表で研究成果等を発表
- ◆ 第7回インテリアデザインコンペで教育学部齋藤芳徳ゼミが優秀賞を受賞
- ◆ 地球温暖化に対する講演会を開催
- ◆ 永年勤続者表彰式・懇談会を開催
- ◆ 特別支援学校の体育における柔道の実践

茨城大学総務部総務課広報係

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

## ◆ 職員採用内定通知書交付式を実施

10月1日、来年4月に採用予定の事務職員、図書職員、技術職員採用内定者の採用内定通知書交付式を実施しました。

これは、採用内定者に対し、大学への理解を深めてもらい、かつ、採用内定者同士の相互交流を目的としたものです。

採用内定者は、山本恵一理事（総務・財務担当）から採用内定通知書を交付され、「国立大学法人を取り巻く厳しい現状の中で、若い皆さんの力を大いに期待しています。」との歓迎の挨拶を受けた後、引き続き、同理事による「国立大学法人化後の現状と課題について」「平成23年度概算要求文部科学省要望枠10項目」などについての講話を受け、熱心に耳を傾けていました。また、山本理事からは、概算要求特別枠に対するパブリック・コメントへの参加について「採用内定者は、大学の準構成員として、ぜひ協力して欲しい」との要請がありました。



挨拶する山本理事

その後、山本理事、総務部長等、職員、先輩・若手職員らの出席のもと、和やかに懇談をしながら昼食を取り、午後からは、先輩・若手職員へ大学業務等について懇談形式の質疑応答を行いました。交付式当初は緊張していた採用内定者も、すっかりうち解け、先輩・若手職員へ積極的に質問するなど、大学職員の仕事ぶりや職場について理解を深めることができた様子でした。



先輩・若手職員と採用内定者の懇談

## ◆ 第5回茨城大学同窓会連合会総会及び懇親会を開催



10月2日に茨城大学茨苑会館において、11時から第5回茨城大学同窓会連合会総会が開催されました。

総会は、堀川賢壽会長の挨拶に始まり、議事として①平成21年度事業及び会計報告 ②平成22年度事業計画及び予算について ③平成22～23年度役員について佐藤瑛一代表幹事及び事務局

から説明があり、審議の結果、満場一致で承認されました。最後に大学より「元気な日本復活特別枠」要望に関するパブリックコメントについて、山本恵一理事より説明があり同窓会の全面的協力をお願いし、出席者全員に理解いただきました。

また、12時からは会場を茨苑会館「SHIEN」に移し、懇親会が開催され、新会長及び新代表幹事の基に茨城大学同窓会連合会、各学部同窓会、職域・地域同窓会及び本学の関係者が40名ほど出席し、本学からの近況報告や各学部同窓会及び職域・地域同窓会からの活動報告など、終始和やかな中で情報交換を図ることができました。

最後は、参加者全員で茨城大学校歌を斉唱し、今後も同窓会と大学が密接な連携を保ちながら、活動していくことを祈念して閉会となりました。

### 平成22～23年度役員

名誉会長	池田 幸雄 (茨城大学長)	代表幹事	佐久間 隆 (理学部同窓会常任幹事)
顧問	田代 尚弘 (茨城大学副学長)	幹事	糟谷 政和 (文理・人文学部同窓会幹事長)
"	神永 文人 (茨城大学副学長)	"	佐藤 瑛一 (教育学部同窓会幹事長)
会長	久保田益充 (理学部同窓会会長)	"	山村 靖夫 (理学部同窓会常任幹事)
副会長	野口 芳男 (文理・人文学部同窓会会長)	"	小林 正典 (多賀工業会幹事長)
"	堀川 賢壽 (教育学部同窓会会長)	"	中村 豊 (農学部同窓会幹事長)
"	木曾 正明 (多賀工業会会長)	会計監事	金子 一夫 (教育学部同窓会幹事)
"	赤塚 尹巳 (農学部同窓会会長)	"	杉田 龍二 (多賀工業会理事)

## ◆ 名誉教授称号授与式・懇談会を開催

10月7日、本年8月末日に任期満了により退職された理事・副学長に対する名誉教授称号授与式が事務局第二会議室で行われ、関係者出席のもと池田幸雄学長から称号記が授与されました。

名誉教授の称号は、多年本学に勤務し、教育上又は学術上特に功績のあった教授に授与されるもので、元工学部長、農学部長であられた両氏が今回新たに名誉教授となりました。

称号授与式に引き続き、昼食を取りながら名誉教授懇談会が開催され、新名誉教授からは、思いつ話、抱負、これからの茨城大学に期待すること等についてお話があり、終始和やかな雰囲気の中で歓談が行われました。



挨拶する池田学長

新名誉教授（敬称略）

元 理事・副学長（教育担当）

白石 昌武

元 理事・副学長（学術担当）

松田 智明



白石名誉教授



松田名誉教授

## ◆ 平成 22 年度 茨城大学学長学術表彰式及び講演会を行う

10月14日、水戸キャンパスにおいて、茨城大学学長学術表彰式及び講演会を行いました。

学長学術表彰制度は、先進的又は独創的な研究を実施している教員の研究成果をたたえ、教員の研究意欲の向上を図る目的で昨年度から設けられました。表彰を受けた研究成果等を学内外に広めることにより、大学の研究がより一層活性化するものと本学では期待しています。

本表彰制度は各学部長から推薦を受けた表彰候補者について、研究企画推進会議で厳正な審査が行われ、池田幸雄学長が藤原貞朗人文学部准教授と呉智深工学部教授の2名を優秀賞に選定し、表彰状と記念品の盾を受賞者へ贈呈しました。

引き続き行われた講演会では、学長並びに学部長等が出席し、受賞者から今回の受賞対象となった研究内容の紹介がありました。表彰式及び講演会の模様は、日立キャンパスと阿見キャンパスにもバーチャルキャンパスシステムで同時配信されました。



記念撮影

(左から神永理事・副学長、呉教授、池田学長、藤原准教授、佐々木人文学部長)

### [受賞理由]

#### ○ 藤原貞朗 准教授 (人文学部)

アンコール遺跡をめぐるフランス考古学の活動を広範な資料に基づき描き出すことに成功した研究業績の結果として、平成21年6月に(財)日仏会館・読売新聞社より「第26回渋沢クロード賞」、平成21年11月に(財)サントリー文化財団より「第31回サントリー学芸賞」を受賞しました。

#### ○ 呉智深 教授 (工学部)

構造ヘルスマonitoringに関する理論解析、技術開発と応用および教育に顕著な功績を上げ、該当分野の発展に大きく貢献し、国際的リーダー役と求められた研究者に贈られる功績賞である「2009年度国際構造ヘルスマonitoring 今年の人物賞」を、平成21年9月に受賞しました。

## ◆ ポゴール農科大学（インドネシア）における 熱帯農業フィールド実習の報告会を挙

インドネシアのポゴール農科大学において9月21日から7日間にわたり実施された、「熱帯農業フィールド実習」の成果についての報告会を10月27日に行いました。

本実習では、本学大学院生28名、ポゴール農科大学学生30名が参加しました。学生らは「熱帯農業フィールド実習」及び「グループ課題演習」を履修した後、英語による活発な「ディベート」の演習を行いました。熱心に実習に取り組んだ結果、参加学生らは科目単位認定のサーティフィケートを授与されました。

報告会で、池田幸雄学長は「海外に行って、現地の文化を体験することは重要なことであつたと思う。この経験を生かしてほしい」と挨拶しました。

その後、実習担当教員から実習期間中の概要説明、学生代表による現地学生との交流を含めた活動の内容・成果等について報告があり、本事業が有意義なものであることを再認識できる報告会となりました。



報告会の様子

## ◆ 図書館(本館)で名誉教授室を開室

図書館本館は、古文書等貴重資料の保存室を改修して名誉教授室を新設し、11月4日、オープンセレモニーを挙行了しました。

開室にあたり、池田幸雄学長と小野寺淳図書館長から挨拶があり、池田学長は「これまで水戸キャンパスには名誉教授室がなくご不便をおかけしていたが、これからはこの部屋を大いに活用していただき、名誉教授の先生方のパワーもいただいて大学をいっそう活性化したい」と述べました。

出席した名誉教授からは「パソコンが使えるので便利だ。大いに利用させていただきたい」、「名誉教授同士のコミュニケーションの場ができた」と期待の声が寄せられました。

完成した名誉教授室には閲覧席が3席と資料閲覧用のテーブルやパソコン、プリンタ、テーブルなどが用意され、開館時間中自由に利用できます。

当館では今回の開室で名誉教授の学術研究活動を支援し、地域の学術研究、教育の発展に寄与することを期待しています。



挨拶する池田学長  
(右端)



歓談する池田学長(中央)と  
名誉教授の先生方

## ◆ 定例記者発表で研究成果等を発表



本学では、広報室設置に伴い、今年度から年4回程度の定例記者会見を行っています。11月12日に行われた記者発表は定例としては3回目、農学部阿見キャンパスにおいては初めてとなります。

左から加藤准教授、太田農学部長、佐藤准教授と応援学生ら

小野寺淳広報室長の司会により、冒頭、太田寛行農学部長から12月6日に行われた国際交流会館竣工式について案内がありました。次いで、加藤亮准教授からは同じく12月5・6日に開催された「霞ヶ浦環境シンポジウム&アジアコンソーシアムシンポジウム」について説明がありました。

続いて、佐藤達雄フィールドサイエンスセンター准教授からは、湯温散布による施設イチゴの農薬使用量削減の成果発表が行われました。同研究室では茨城県農業総合センター園芸研究所などと共同し、農作物に湯温による熱ショックを加えることにより、うどんこ病や炭素病などの病害に対する抵抗性を強制的に誘導する現象を発見し、茨城県の主要品目のひとつであるイチゴに対し実用化を目指していました。



湯温散布装置「ゆけむら一」

このたび、実用的な効果が確認できたことから、湯温を散布する装置「ゆけむら一」を試作、11月24日から26日まで幕張メッセで行われていたアグリビジネス創出フェアでも発表しました。

また、広報室との共同で、本研究を支援するマスコットキャラクターを製作しました。キャラクターデザインは大学院生によるもので、「湯莓あみ（ゆいちご あみ）」と命名されました。

なお、このキャラクターのコスチュームに扮した学生も登場、イベント等で今後PR活動に活躍することとなりました。

◆ 第7回インテリアデザインコンペで教育学部齋藤芳徳ゼミが優秀賞を受賞



JAPANTEX2010 で行われていた「第7回インテリアデザインコンペ」において、審査の結果、教育学部情報文化課程の齋藤芳徳ゼミのメンバーが「優秀賞」を受賞しました。

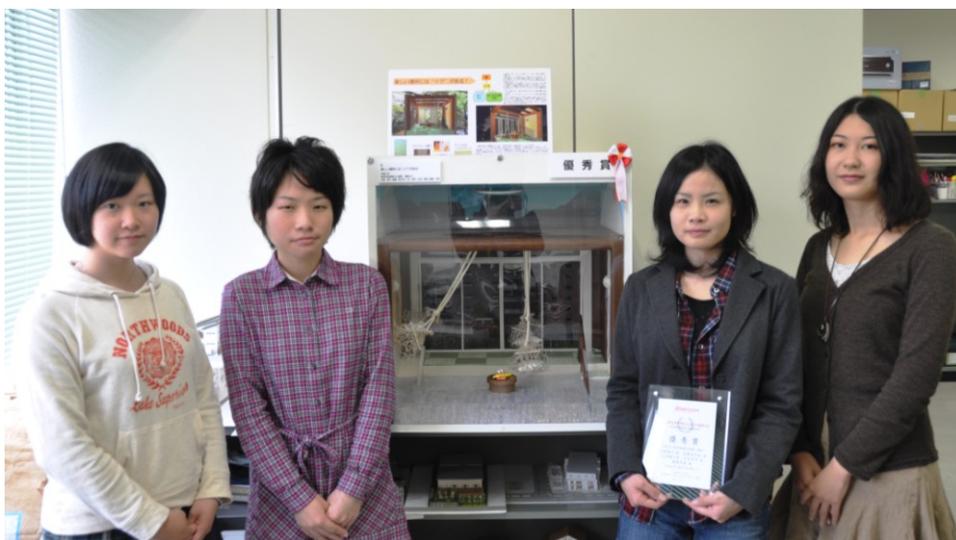
(メンバー：教育学部情報文化課程3年 北野瑛子、齋藤美沙紀、山本綾子、吉田美香、いずれも齋藤芳徳ゼミ生)

作品名「楽しい場所には“イク”がある！

デザインコンペは、「Good day, Good style 飾育 ～つながる、はぐくむ、まなぶ。～」をテーマに、登録応募者数 266 名（応募者はプロ、大学生、専門学校生、等）、作品数 164 名の中、15 名が 1 次審査を通過し、2 次審査の結果各賞が決定、齋藤ゼミは最優秀賞に次ぐ、優勝賞 2 点のうちに入りました。

齋藤ゼミは「飾育」の「育（イク）」に着目して、「育てる」とはどういうことを考えることから出発し、人と人とのコミュニケーションを育む場として、「子ども」には「遊び」、「大人」には「安らぎの空間」を提案しました。

今回の受賞に際し、メンバーの山本さんは「第1次審査を通っただけでもうれしかった。まさか優秀賞を取れるとは思ってなかったので、感激した」、吉田さんは「初めは意見がまとまらなかったが、必要なのはコミュニケーションだと気づき、学生らしさをアピールするのに水などを使うなどして、遊び心を加えたのが良かったと思う」と喜びを語りました。



優秀賞作品と齋藤芳徳ゼミのメンバー

## ◆ 地球温暖化に対する講演会を開催

11月17日、連携講演会「茨城における地球温暖化対策の見通しー猛暑の夏を経験してー」を水戸市内のホテルで開催し、約120名の市民らが来場しました。

主催は、茨城県、茨城産業会議、本学によるもので各連携協定に基づく事業として行われており、今回で4回目の開催となります。

池田幸雄学長が開会の挨拶で、持続社会実現の重要性について述べ、講演会に移りました。

はじめに、気象庁地球環境・海洋部 及川義教調査官による「異常気象と地球温暖化～2010年夏を振り返る～」、次に加藤亮農学部准教授による「IBOS：茨城大学バイオ燃料社会プロジェクトについて」、最後に（社）ロハス・ビジネス・アライアンス（LBA）共同代表 大和田順子氏による「サステナブルな社会のつくりかたー“ロハス”で変えるライフスタイルー」と題した講演は、いずれも地球温暖化というひとつのテーマを三者三様の切り口で発表したもので、どれも好評でした。

講演後は、講演者3名と原口弥生人文学部准教授を交え、地球変動適応科学研究機関（ICAS）三村信男機関長の進行により、「茨城における低炭素社会の取り組み」についてパネル討論が行われました。質疑応答では、生活に密着した質問等が飛び交い、パネリストの回答に参加者は熱心に耳を傾けていました。



パネル討論会の様子

## ◆ 永年勤続者表彰式・懇談会を開催

永年勤続者表彰式が11月19日、事務局第二会議室で行われ、役員、副学長出席のもと、池田幸雄学長から被表彰者一人一人に表彰状が手渡され、あわせて記念品が贈られました。

永年勤続表彰は、永年にわたり勤務（勤続 20 年）し、職務に精励された教職員を表彰するもので、本年度の被表彰者は 12 名でした。

表彰式においては、池田学長が祝辞として永年の労へのねぎらいと、今後の活躍への期待が述べられ、これに対し、被表彰者を代表して教育学部附属小学校石川真裕美教諭が謝辞を述べました。

表彰式に引き続き、昼食を取りながら懇談会が開催され、被表彰者からの挨拶の後、役員、副学長からの祝辞も頂き、終始和やかな雰囲気の中で歓談が行われました。



謝辞を述べる石川教諭



表彰式後の記念写真

### 被表彰者（50音順、敬称略）

安齊 寛（教育学部附属中学校[教諭]）／石川 真裕美（教育学部附属小学校[教諭]）／海野 智（財務課）  
江幡 浩利（企画課）／軍司 伸幸（理学部事務局）／佐藤 潔（教育学部事務局）／菅谷 文宏（人事課）  
平澤 優子（理学部事務局）／深澤 正一（財務課）／三田村 明（施設課）／三村 和子（教育学部  
附属特別支援学校[教諭]）／矢内 結香（総務課）

以上 12 名

## ◆ 特別支援学校の体育における柔道の実践

教育学部附属特別支援学校の中学部では、11月から12月にかけて、体育の授業において、尾形敬史教育学部教授の指導の下、学生をゲストティーチャーとして招き、柔道の実践授業を行いました。

生徒達は本格的な柔道の授業に身も心も引き締まる思いで真剣に取り組んでいました。

同校の白土良子副校長は「柔道の学習をとおして、柔軟性や筋力を養うとともに、身体意識、空間認知、自己統制、他者意識、礼、日本文化などを学んで欲しい」としています。

知的障害特別支援学校で武道を取り入れた体育の授業を実践している学校は数少なく、大学の附属学校ならではの特色ある取り組みと期待されています。



(写真：実践授業の様子)

